

# 1900年 札幌基線



一等三角点 札幌北端  
(北区麻布町8丁目)

一等三角点 札幌南端  
(東区北11条東1丁目)

- 一等三角点 札幌北端：正常 (1979年、1986年地上標を移転)
- 一等三角点 札幌南端：正常 (1969年、1979年地上標を改埋)

## 一等三角点 札幌北端



**札幌基線北端点** 等級：一等三角点  
名称：札幌北端

この三角点は、北海道の測地測量を実施する際、「長さ」の基準として用いられた札幌基線の北端点として明治33年に設置されたものであり、三角測量によって日本経緯度原点（東京都港区）と結ばれています。この三角点と札幌基線の南端点（札幌市東区北11条東1丁目）までの距離7703メートルはヒルガード式基線尺（アメリカ製）によって、精密に測定され北海道の地図（五万分一地形図等）をつくる基礎として使用されました。最近では地図をつくることのために、三角点のくり返し測量から、地殻の動きを見つけることなどに使用されている大切な測量標です。

## 一等三角点 札幌南端

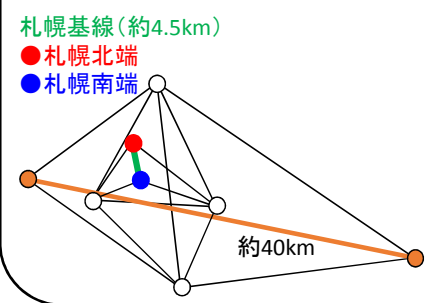


**札幌基線南端点** 等級：一等三角点  
名称：札幌南端

この三角点は、北海道の測地測量を実施する際、「長さ」の基準として用いられた札幌基線の南端点として明治33年に設置されたものであり、一等三角測量によって日本経緯度原点（東京都港区）と結ばれています。この三角点と札幌基線の北端点（札幌市北区麻生町）までの距離（4539.7703メートル）はヒルガード式基線尺（アメリカ製）によって、精密に測定され北海道の地図（五万分一地形図等）をつくる基礎として使用されました。最近では地図をつくることのために、三角点のくり返し測量から、地殻の動きを見つけることなどに使用されている大切な測量標です。

国土地理院

## 基線は一等三角測量の始まり



明治時代に開始した一等三角測量は、ほとんどが約40km先にある三角点を測量していますが、正確な距離を求めた「基線」が出発点となっています。道内には、このような「基線」を札幌のほか3箇所（基線名：声間、薫別、択捉）に設置しています。